

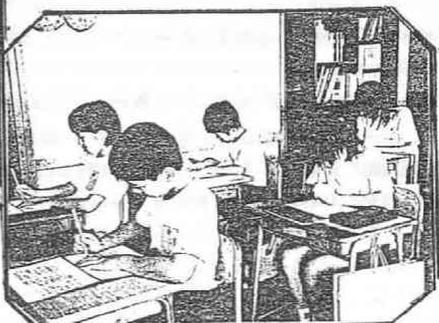
小学校現場での実践から

河原 節子

研究のまとめ (裾花小学校)

研究テーマ

日常生活に生きる文字の力を育む書写学習のあり方



長野県 長野市立 裾花小学校 国語研究会

清水啓治 柄沢宏幸 吉田真弓 市川香織 柳澤美恵子

千村知子 金井房子 窪田ゆかり 河原節子

目次

一、研究テーマ

二、研究テーマ設定の理由

三、研究内容

1. 研究の構造

2. 各学年目標・児童の書写に関わる実態

学年で押さえる基礎、基本事項

各学年の書写指導事項の具体

3. 日常生活に生きる文字の力を育むための授業改善

実践事例

仮説1

仮説2

四、学習指導案

1. 単元名

2. 単元設定の理由

3. 年間単元配当表

4. 単元の目標

5. 単元展開

6. 本時案

7. 座席表・本時の実証の観点

8. 授業記録 5年・3年・1年 (講習会記録)

9. 実証授業から示唆されたこと

10. 成果と課題

一、 裾花小学校国語科書写研究テーマ

日常生活に生きる文字の力を育む書写学習のあり方

二、 研究テーマ設定の理由

本校では、五年前に「基礎、基本を大切に、生き生きと取り組む書写学習」をテーマに据えて、書写教育の全国大会が行われた。学習課程の中に、児童の主体的な学習を位置づけ、基礎・基本の習得と自ら学ぶ力の育成をめざした。試し書きを取り入れた学習課題づくり、自分の文字への朱書きによる批正、学習基準の把握などを通して、児童は、各単元における書写力を伸ばしてきた。

書写の学習では、教材文字を試し書き、批正、消書という手順で進め、出品作品を仕上げていることが多い。書写の時間には、課題解決に向かって丁寧に集中して書く児童が多く見られる。ところが、生活の中で書く文字は乱雑で、読みにくいこともある。言い換えれば、書写学習で学んだことが、生活の中の文字に表れにくく、実際的な書写力が身についていない。

このような姿を生み出している指導の反省として、生活の中の文字に対応できるような学習課程を仕組みなかったことや、作品を書き上げることに意識が傾いてしまい、相手意識や目的意識を、色濃く出すことができなかったことなどが考えられる。

6年生で文字の意識調査を行ったところ「文字がないと手紙もかけないし、いつも遠くに住んでいる人には電話になってしまう」「文字は人と人をつなぐ大切な物だ」「文字は耳の聞こえない人やしゃべれない人にとっては、とても役立っている」「将来ご祝儀袋等、筆でかくのでそれにつながるよう…」「文字は生活のため、伝えるためにある」が出され生活の中での文字の役割や必要感を児童なりにとらえていることもわかってきた。

5年生では、4年生から続けているクラス新聞の実践を踏まえ、クラス新聞の文字に焦点を当てるとより一層、文字に対する意識や感覚が高まっていくのではないだろうかということも予想された。

1・3・4年生では4月からの新しい児童との出会いのなかで、用具の扱い等、基本的なことの定着に時間がかかってはいるが、「母の日にお母さんにカードを送ろう」「4年生の目標をかこう」「どんな文字でもいいから墨の濃さを確かめるために字を書こう」と相手意識や、目的がはっきりした時の文字は、丁寧さや読みやすさに明らかな違いが表れることも分かってきた。「普段は粗暴な行動が目立つのに欠席したお友だちのプリントには名前を丁寧に書いている姿」や「黒板に日付をきれいに書く児童の姿」もみられたことから、児童の意識の中に「誰に、どんなことを伝えたいか」という相手意識が持った時、書き方に変化が見られるのではないかと考えた。また、文字に対して「正確に伝えたい、気持ちよく表れるように伝えたい、分かりやすく伝えたい」という必要感がはっきりした時、より伝達性の高い文字が書けるのではないかと考えた。

そこで、文字に対する意識を育み、生活の中の文字を教材とした書写の学習課程と指導法を明らかにして、日常生活に生きる書写力の向上を願って本テーマを設定した。

三. 研究内容

1. 研究の構造

学校目標 ポプラのようにたくましく、心豊かな子

校内研究テーマ「対象とのかかわりの中で問いを見だし学んでいく子どもの育ちを求めて」

国語科書写研究部会テーマ「日常生活に生きる文字の力を育む書写学習のあり方」

「日常生活」とは：児童の学校生活を中心とした学習、行事などの活動
「日常生活に生きる文字の力」とは
：伝達性の高い文字を書く力
文字の良さがわかり、文字の課題を持つ力
文字文化を大切に思える心

視点1 子どものおもい・願い
上手く書きたい、きれいに書きたい
分かりやすく書きたい、気持ちが伝わるように書きたい
文字は必要だ

視点2 基礎基本の定着
①姿勢、執筆の意識化
②用具の準備、片付け方扱い方に慣れる
③基本的な点画の筆使いの理解
④指導法、展開の改善
*教科書学年毎の研究

視点3 生活実感のある学び
①対象への意識化、かかわり方
②必要感の明確化
③目標、課題にせまる工夫

新しい書写教育
生きる力
主体的な学習
総合的な学習へ

書写学習をめざす敬愛の心
①文字と向き合い自分を見つめる
②文字文化の深さを知る
③文字、書いた人・友との出会い

書写学習の中で育てたい児童の姿
○日常生活の中で、読みやすい文字を書こうとする子
○文字のよさが見つけられ、次の課題を持つことができる子
○用具や作品を大切にする子

各学年の書写指導事項の具体（基礎、基本として定着を図っていききたい事項）

<1学年>

1. 姿勢…①足べっタン
②背中「ピツ」
③グー
④チョキ
⑤パー

3. 字の形（点画の長短、接し方、交わり方）



- 1 組のおへや
2 組
3 組
4 組

2. 鉛筆の持ち方…親指が人差し指の先より

- 下がない。
①人指し指が反り返らない。
②人指し指硬直しない。
②ふんわり

筆順… あか→青→緑→白（黒）



<3学年>

1. 毛筆用具の扱い …筆の持ち方・用具置き方・後始末の仕方

筆の持ち方
太筆



二本かけ



一本かけ



小筆
えん筆より立てて持つ
右手は軽く机の上におく。

後始末の仕方…紙で筆の墨を拭き取る。紙専用バケツに水を入れて洗う。小瓶に水を入れて筆を洗う。

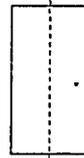
2. 筆使い…始筆・送筆・終筆
始筆…トン(いち) 時計の針10:30分(45°)の方向で
送筆…スー(に) 横画→縦画
終筆…トン(さん) 点画

3. 文字の形と中心…紙を折る。下敷きを作る
紐やテープで中心線を作る。

外形、点画の方向と長さ…文字で三要素を確認する。

青

青



- 字形を整える三要素
①画と画の間
②画の方向
③画の長短

<5学年>

1. 文字の組み立て… 辺と旁、かんわり、たれ、かまへの組み立ての特徴を知る→硬筆
2. 漢字と仮名の文字… 平仮名より漢字を大きく書く。文字と文字の間に等間隔に空ける。
3. 平仮名の筆使い… まがり・はらい

小筆…穂の約、三分の一をおろす。
鉛筆より立てて持つ
右手は軽く机の上におく。
左手で半紙を軽く押さえる。

4. 配列、字配り… 硬筆の時は配列といい、毛筆の時は字配りという。
字配り…文字の大きさ、中心、文字と文字の間の空き、半紙の上下左右の空き

3. 日常生活に生きる文字の力を育むための授業改善

実践事例 <1学年>

事例① 「えんぴつ」は題材名
「えんぴつ」のもちかた 4月 (3時間)
練習用紙で線遊びを経験した子どもたちが、書写体操、拡大模型の操作を通して正しい姿勢・鉛筆の正しい持ち方を知り鉛筆で線や絵を書いた。

児童の様子・成果と課題
☆一年生には言葉で長く説明するより「(姿勢は)足べったん、背中ピン」のほうが分かりやすい。
☆拡大模型として準備した鉛筆の持ち方の手と鉛筆は子どもを引きつけた。操作させる人差し指と親指で鼻をつまむなどの鉛筆を持つときの役目が理解しやすかった。
★拡大模型を使った鉛筆の持ち方で「気が付いたことは？」の発問に対して「手が大きい」「鉛筆が大きい」と、見て感じたままの言葉が出るので、鉛筆を持つ場所や指の位置に気づくような、焦点化した発問も状況に応じて必要。
☆一学年で指の位置で参観日に行うことにより保護者にも正しい姿勢や、正しい持ち方が理解できたようだ。

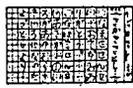
事例② 5・6月 (各1時間)
「ははのひ かーど」になまえをかこう
「ちちのひ かーど」になまえ(フルネーム)をかこう
「あさがおさんへ」手紙書き 5月27日・6月3日・6月18日・6月24日
[生活科の時間で扱う]
おかあさん ありがとうの文字と花束のイラスト お手伝い券を印刷したメンバーズカードに、おかあさんが見て、喜ぶようなカードにしようと書いて色を塗って、なまえを書いた。
おとうさん ありがとうの文字とイラスト せなかをながします・びーる・うーるんち
おきます券を印刷したカードに、おとうさんやおじいちゃんももらってうれしくなるよ
うなかーどを作ろうと書いて色ぬり、似顔絵、フルネームで名前書きをした。

児童の様子・成果と課題
☆母の日、父の日のプレゼントとしてカードに名前をいれた。升目や補助線を入れることで書く場所や文字の形がとりやすい。
☆「父の日 かーど」を作る際は5月に作ったカードのことをよく覚えていて指示することが減った。事情のある家庭とは事前に連絡をとりあって本人とも話しをしてからカード作り・名前書きをした。
☆色塗りや絵、はさみを使うことがとつてもうれしそうだった。文字習得練習の中に楽しい作業を織り込むことで意欲が持続するようだ。
★あさがおさんへの手紙を、芽が出たとき、本葉が出たとき、つるのびたとき変化に気付いて欲しいとき、喜びの声があがったときに書いた。「つ」と「っ」の学習をM児の文で扱った。[5月23日 国語の時間] 記入用紙は縦野からマス目、補助線入りに換えてみた。中心線を意識させると、文字が揃い、読みやすくなる。
★濁音。半濁音の書く位置の定着に向けて、再度、学習する必要がある。

事例③ 7月 (1・2・2時間扱い)
粘土への名前書きや名前の練習
七夕・「ほしまつり」をしよう
空のお星様にねがいごとくように 短冊に願い事を書いた。
[生活科の時間で扱う]
「とめ・はね・はらい・おれ・まがり・むすび」を平仮名カードでたしかめよう。
えを使い、とめ・はね・はらい・おれ・まがり・むすび の記号を子ども達と考え平仮名カードに記入。全体で一個々に
「につっき」をかこう 「なほこせんせいへ手紙をかこう」
教育実習生の菜帆子先生からのお手紙の返事を日記形式の用紙に書いた。

児童の様子・成果と課題
☆粘土への名前書きは、すぐ書ける、かんたんにかける、何度でも書ける、粘土で作った好きな物に、ネームプレートとして飾れるという楽しみがあった。
☆短冊の練習用紙を用意することで子ども達の中に紙の中心、文字の中心に気を付けて書くことと曲がらないことが少しわかりはじめたようだ。ていねいに書くとうとう気持ちもちがって曲がらなくなってきた。カタカナでベイプレートがほしいと書きたくて熱心に書き方を担任や、友だちに尋ねた。
☆平仮名カードの学習では終筆、送筆・字形にかかわった感想が出された。

まげるとおぼえてよかった (はつき)
 位置がわかった (みふ)
 場所がわかった (かすき)
 ねがわかった (ゆみか)
 結ばうとわかった (ゆうま)
 はらうとわかった (としき)
 はらうとわかった (かな)



★葉帆子先生への手紙では児童のプリントと同じ形式の拡大プリントを用意し黒板に掲示した。視覚からのとれが分かりやすい。
 ★マス目用紙は字形、文字の中心がとれやすいので入門期の一年生には必要。
 ★個人差があり、マス目に点々の文字書きをして指導する子もいる。

考察

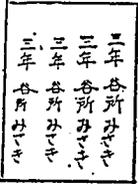
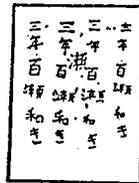
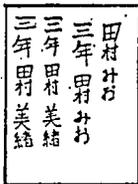
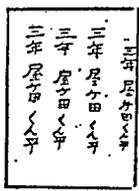
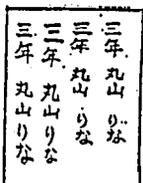
- ・文字学習がスタートする1学年では、生活に関わる書写教材はふんだんにある。
- ・文字を書きたいという意欲が見られる4月に一文字ずつの文字練習を毎日とり入れていくことで、文字を覚えていくことができる。
- ・朝のドリルの時間に書写を取り入れることで基礎基本の定着につながっていく。
- ・生活に寄り添った書写教材の必要感や相手意識は児童のなから引き出すことが大切。

実践事例 < 3 学年 >

1. 取柄名「名前を叩く」
2. 本時の主題
全体のバランスや文字の位置を考えた下取りに名まえを書く。
3. 本時の展開と位置
一問一答
4. 指導上の留意点
本取で名前を書く手順の持ち方を事前に指導しておく。
5. 本時の展開

ねらい	学習活動	児童の様子
本時のねらいを認識する	自分の名前を書いた作品と教科書や友だちの作品と比べ違いを調べる。	作品に名前を書く。 教科書や友だちの作品と比べて気づいたことを発表する。
自己課題を知る	自分の名前の長さから文字の間隔や大きさをどのくらいにしていたらよいか考える。 教科書や友だちの作品などを見ながら名前をバランスよく書くためのポイントを確認し合う。	・ 名前が狭くて全部取れないよ ・ 字の大きさがバラバラだな ・ 上の方に書きすぎて下があちゃった 数名の作品を提示しそれを見て気づいたことを発表する。
基準をさがす	<ol style="list-style-type: none"> 1. 名前も中心が揃うように 2. 三年と名前の間は二文字分ほどあける 3. 名前が等間隔になるよう鉛筆で少し印をつける (最初の一回のみ) 4. 名や姓が一文字の場合は間を少し広く 5. 左・上下に少し余白をもたせる 6. ひらがなは漢字に比べやや小さめに 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 字が狭くてしっかりしているといいな ・ 名前が狭い人はちょっと小さ目に書いた方がいいよ そうすれば全部取れそう ・ 字が少ない人は間を少し広げよう ・ 名前も始筆や終筆がしっかり書いてある
練習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が特に気をつけることを決める ・ 自己課題を解決するための練習用紙を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 字と字の間をあけて書きたい ・ 紙の端より書きたくない ・ 上に書きすぎたり下が空まったりしないうにしたい
修正する	名前の練習をして良かった点やうまくできなかった点などを発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最初のはみ出してしまったけれど、少し小さめに書いたら全部名前が収まった ・ 紙の真ん中を考えて書いたらすぐよくなった ・ 年賀状にも書けそう嬉しい ・ ひらがながうまく書けなかった ・ まだ習っていないのはむずかしい

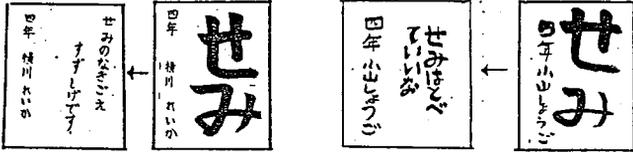
6. 成果と課題
 - 自分の名前という点もあって一人一人が自信を持って練習に取り組んでいた。またやりたい、表札が書きたいという子も出てきた。
 - 今まで「十」や「日」の練習をしてきたが、さっく上手に書いても名前が失敗してしまう子が多かったのがこの授業を機に変わった。今回名前の書き方を学習して自信を持ち、次の習字もがんばりたいという子がでてきた。
 - 練習用紙は半紙を横にして作ったものを使った。そのため、常に前回の自分の字と比較しながら練習できた。
 - はじめに鉛筆で印を付けたところから名前を書き、それを見ながら順に右に書いていった。そのため名前が揃っていたようだった。
- お手本を用意しなかったで字の形が取れない子が何人も見られた。バランスや位置などは良くなったが、名前の字は習っていない字を書かなければいけない子がほとんどなので、年間ではかかると一人一人の名前の手本を用意した方がよい。
- 大表では図をつけすぎてしまう子がいた。小紙を使用してまた取り組んでみたい。



考察

- 毛筆学習がスタートする3学年では、用具の扱いや毛筆に慣れることが必要であり、基本点画などを繰り返して定着をはかることが重要。
- 名前書きに抵抗のある児童を見つけたら、名前書きの練習を楽しくてみる。教科書やノートへ名前書き、プリント類へ名前書きなど、毛筆学習の機会を多く取り、生活の中で書く機会が多く、書く必要感もある名前書きを確認しながら書くこと。
- 字形、点画、文字の中心をはっきりさせ、狭帯への関連指導も図ることができる。
- 字形を整えて文字を書くためには、参考となる手本があったほうが、文字のイメージがはっきりして書きやすい。

実践事例 < 4学年 > 「せみ」は題材名
 「平仮名の筆使いと文字の大きさを知ろう【せみ】」 8月 (1時間)
 太筆で【せみ】を書き、その後、「せみ」という言葉を入れて短文を作り、小筆で書いた。



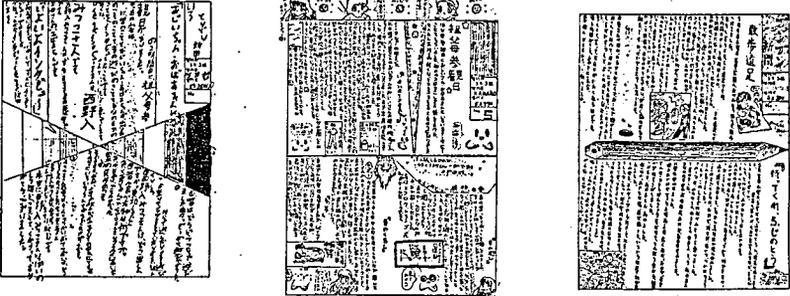
児童の様子・成果と課題

- 教科書P14を見て、太筆で「せみ」をかいた。筆使いや字形について、実態を『せみ』の書きかたを細かく見て、かきかたをきき、名前を書くとまきまきの書きかたを小筆で持持ち、「せみ」という言葉を入れて短文を書いた。児童は、短文を書きかたをきき、中心がけや、一直線上に印をつけるなど工夫して書き上げた。
- 平仮名は漢字より抵抗なく書けた。また、太筆より小筆で書いた方が、「せ」の曲がりや「み」の結びは、筆使いが無理なくかけている。
- 平仮名と漢字の筆使いのちがいが、平仮名の特徴、小筆で書くときのポイントは指導が必要。

考察

- 小筆は、太筆よりも文字数が多く書け、太筆よりも容易に筆使いを学べる。よって、児童が日常生活の中で書く文字に一番近い練習や学びができるのではないかと。
- 児童が自分で言葉を考えて書くことで、与えられた学習から、自分で進める学習へと学ばせたのが、その結果、やらされているといった感の少ない学びができたのか。
- 小筆の学習は三年生から始まっている。持ち方、筆使い「曲がり・おれ・とめはらい・平仮名の筆使いと特徴・むすび【ビル】【にじ】【すな】での既習の学びの定着が求められる。

実践事例 < 5学年 > 「5年3組 夢新聞」 5月 総合的な学習 (3時間)
 5月17日の祖父母参観日におじいちゃん、おばあちゃんに昔の遊びや学校のことや生活のことをインタビューし、一人一人が新聞にまとめた。
 夢新聞



児童の様子・成果と課題

- ・好きなおじいちゃん、おばあちゃんや友達のおじいちゃん、おばあちゃんにイタダキニューして新聞を作ることが楽しく、どんどん書き進めた。
- ・新聞は15年3組新新聞から命名し、冊子にまとめた。『5年生 になって』
- ・5年生3組では5年生になってから9号の新聞を発行している。『5年生 になって』
- ・『安終えて』内容やレイアウトに楽しさが伝わる新聞づくりとなった。
- ・『5年生 になって』内容やレイアウトに楽しさが伝わる新聞づくりとなった。
- ・書くことが楽しく、知り得た情報をまとめる面白さがある。
- ・読みやすく、見やすい新聞にしようという意識はあるが、文字そのものに焦点を当てず、読みやすい中心が揃っていない。

考察

- ・読み手に読みやすく、見やすい新聞という意識を高めていくことが必要ではないか。
- ・文字そのものに焦点をあてて、字形や文字の配置が揃う学習が必要。
- ・新聞を書いていて楽しい、できあがって読み合うことが楽しいという新聞作りの魅力が書く意欲を支え、相手意識を持たせているのではないか。
- ・5年生になると、文字数が圧倒的にふえ、書写の時間に学習する内容がなかなか、生活の中の文字に現れてこない。

以上、研究の視点1・2・3（指導案P2）を意識した実践を重ね、考察をし、仮説1・2を導きだした。

仮説1 子どもたちの生活の中から題材を見つけ、教材化することで、必要感や相手意識のある書写力を育むことができるだろう。

仮説2 文字数が多く書け、色々な字形を学びやすい小筆を使うことで、文字に課題を持ち伝達性の高い文字を書く力を育むことができるだろう。

四. 学習指導案

1. 単元名

平仮名の筆使いと行の中心を知ろう
「自作の俳句を毛筆（小筆）で書こう」

2. 単元設定の理由

本学級の子どもたちは、4年生の時から「個人新聞づくり」と「交換日記」を続けている。自分の気持ちや考えを他に伝えることが苦手で、作文や日記などは簡単な短い文で済ませてしまい、字も乱雑に書いていた子どもたちであったが、これらの活動を通して、書くことへの抵抗が少なくなった。また、人間関係が広がりどの子とも関わりがもてるようになってきた。

個人新聞は、B4のコピー紙に担任が指定したテーマや自分の自由テーマに沿って記事を書く。新聞の名前は、各自が自由につけ一年間はそのまま変えず第〇号とする。

（4年時は24号発行）廊下に貼り出して、たくさんの方の目にとまるようにしたり、時間をとってクラスで見合ったり、コンクールを行ったりすることで、相手（読者）に伝わるように書きたいという気持ちが強くなり、内容が分かりやすく書ける子が増えてきた。また、コンクールの時『どんな新聞がいい新聞と言えるか』を考えたことで、見やすさも大切な要素と気づき見出しの字を大きくしたり、目立つようにカラーにしたりして、内容・構成・レイアウトなどに工夫がみられるようになった。

「交換日記」は、女子が私的に行っていたものをオープンにしようと考えて始めた。くじ引き（「運命の赤いひも」）で相手を決め、一日交代で3回ずつ手紙を出し合う。横罫線を引いたB5の用紙に書いたものを担任が集めて配達する。初めは自己紹介や質問とその答えが多かったが、回を重ねるにつれて、その日の出来事や二人に共通の話題が増えてきた。中には罫線を無視して大きな字で簡単に片づけようとする子もいたが、今は罫線に沿ってほしい終わりまで書くようになってきている。相手意識を持って書くことが楽しいためか、自分たちから早く次の相手を決めようと要求するようになった。

このように書くことへの抵抗は減ってきたし、字も見やすく丁寧に書こうとするようになってはきた。しかし、一文字一文字を大きくぎっしり書いていたり、窮屈に読みにくかったり、曲がっていたりするために、乱雑な感じを与えてしまうこともある。また、きれいに整っているようでも、くせ字になっていることに気づかず、それを可として直さないで過ごしてしまっているので、平仮名の正しい字形や行の揃え方・字と字の間隔などに意識を向けさせる指導の必要を感じている。

子どもたちからも、個人新聞や交換日記を見合う中で、文字をきれいで見やすく書けるようになりたいという意識がみられるようになった。そこで、子どもたちが4年生から慣れ親しんできた百人一首と関わらせ、いろは歌を使い平仮名の成り立ちや正しい字の形を学ばせたいと考えた。また、日常使っている鉛筆よりも意識を集中させることが必要であり、太筆よりもたくさん字を書きやすい小筆で書かせることにより、正しい筆使いとともに友だちが読みやすい字配り（字形・字の大きさ・字の間隔など）を意識しながら書く力をつけさせたいと考え本単元を設定した。

3. 5学年 年間単元配当表 <書写>

○硬筆の学習事項 ●毛筆の学習事項
◎硬毛関連の学習事項

月	単元名	時	指導内容
4	一、これまでの学習を生かして	3	<ul style="list-style-type: none"> ○●毛筆、硬筆の姿勢や用具の扱い方 ◎ 文字の組み立て方・配列の確認。今年の自分の目標を硬筆で書くこと ● 筆使いや姿勢・筆の持ち方に注意して毛筆で【春】を書くこと
5 6	二、文字の組み立て方を知ろう	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 左右の組み立て方の理解。左右の組み立て方に注意して毛筆で【銀】を書くこと ○ 左右の組み立て方に注意して硬筆で語句を書くこと ● 上下の組み立て方の理解。上下の組み立て方に注意して毛筆で【笛】を書くこと ○ 上下の組み立て方に注意して硬筆で語句を書くこと ◎ 文字の組み立て方や筆順に注意して縦書きや横書きの文章を書くこと
7 8	三、文字の組み立て方を知ろう <書写の広場>	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 「たれ」のある文字の組み立て方の理解。「たれ」のある文字の組み立て方に注意して毛筆で【草原】を書くこと ○ 「たれ」のある文字の組み立て方に注意して硬筆で語句を書くこと ◎ 手紙書きや文字リレー（一人が一文字を書き、文字をつなげて言葉にしていくこと）をして文字への意識、関心を高めること
9	四、文字の組み立て方を知ろう	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 「かまえ」のある文字の組み立て方の理解。「かまえ」のある文字の組み立て方に注意して毛筆で【仲間】を書くこと ○ 「かまえ」のある文字の組み立て方に注意して硬筆で漢字や語句を書くこと
10	五、平仮名の筆使いと行の中心を知ろう	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 平仮名の筆使いと漢字の筆使いの比較。小筆で書くときの注意事項の確認。小筆で「いろは歌」や名前を書くこと ● 平仮名の筆使いに注意し、字形を整え毛筆（小筆）で【俳句】を書くこと ◎ 平仮名の行の中心の理解。行の中心に注意して硬筆や毛筆（小筆）で俳句を書くこと
11	六、文字の大きさのちがいを知ろう <文字のひみつをさぐろう>	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢字と平仮名の比較と大きさの違い。文字の大きさの違いを確かめて毛筆で【歌う】を書くこと ○ 文字の大きさの違いを確かめて硬筆で文字や文を書くこと ◎ 漢字の組み立て方に注意して二字熟語、「口」「土」「月」「木」の部分のある漢字を調べて書くこと。分りにくい筆順の漢字を覚えること
12 1	七、字配りを知ろう □書き初め	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 「曲がり・はね」「そり・はね」の筆使い。字配りを理解し字配りで注意することをまとめて毛筆で【希望】、【希望の春】を書くこと ○ 「曲がり・はね」「そり・はね」のある漢字を硬筆で書くこと。友だちの作品の良さを発見する鑑賞 ◎ 書き初めにふさわしい言葉を硬筆で書くこと
2 3	八、学習したことを生かして書いてみよう <書写の広場>	5	<ul style="list-style-type: none"> ●○5年生で学習したことを出し合いポイントを確認。文字の大きさに注意して好きな言葉や詩や文章やポスターを読みやすく書くこと。 ● 6年生を送る会の招待状などを硬筆で書くこと

4. 単元の目標

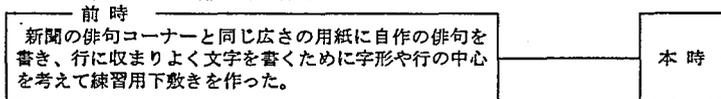
- ・小筆の持ち方や平仮名の特徴や筆使いを知り、「いろは歌」が書ける。
- ・平仮名の筆使い・行の中心・字形・字配りに注意して自作の俳句が硬筆や小筆で書ける。

5. 単元展開 () 内時数

学 習 活 動	活 動 内 容	指導・支 援 ○ 評 価
1、いろは歌を覚えて、平仮名の成立ちを知る。(1)	○いろは歌の手本を見て、平仮名の元が漢字だったことを知り、字形の特徴に気づく。 ○小筆を使い、いろは歌の手本を下敷きにしてコピー用紙になぞり書きしてみる。	○平仮名にはそれぞれ特徴があることに気づかせる。 ○いくつかの字を取り上げて、形が変化してきたことを知らせる。【かもめ】 ○平仮名のおよその形を意識して書けたか。 ○今まで書いてきた字形の見返しができたか。
2、小筆でいろは歌を書く。(1)	○前時のようにして、いろは歌を小筆で書く。 ○小筆で小さな字を書いた感想を出し合う。	○小筆の持ち方や姿勢を意識して書かせる。 ○平仮名の筆使いが <u>わかったか</u> 。 ・折れが曲がりになっている。 ・はねが曲がったはらいになる。 ・文字全体に丸みがある。
3、自分の俳句を試書き、練習用下敷きを作る。(1)	○いろは歌を書く。 ○自分の俳句を毛筆の小筆で書き、字数や平仮名の形、行の中心を考えて練習用下敷きを作る。	○平仮名に合わせた、枠だけの手本で練習させる。 ○新聞のスペースに合わせた紙に俳句を書き、「いろは歌」の字形と照合したり、行の中心を考えたりして下敷きを作らせる。 ○俳句に合った練習用下敷きが作れたか。
4、自分の俳句を新聞に書く。(1・本時)	○いろは歌を書く。 ○練習用下敷きを使って書く。 ○自分の俳句を新聞に書く。 ○文字の見返しをする。	○字の大きさや間隔のアドバイス。 ○ <u>清書に集中して書けたか</u> 。 ○平仮名の筆使いや行の中心・字形・字配りに <u>気を付けて俳句が書けたか</u> 。

6 本時案

- (1) 単元名 平仮名の筆使いと行の中心を知ろう
「自作の俳句を毛筆（小筆）で書こう」
(2) 本時の位置（4時間扱い中、第4時）



- (3) 本時の主眼
新聞に読みやすい自作の俳句を載せたいと思っている子ども達が、小筆でいろは歌の練習をしたり、練習用紙を使って俳句を書いたりする事を通して、行の中心や字形、字配り、筆使いに注意して書くことができる。
- (4) 指導上の留意点
- ・総合的な学習の時間に作ってきた新聞の俳句コーナーに書くことで、読む人に見やすく読みやすい俳句を書くことや、完成したら友だちと読みあって楽しむという意識を持たせる。
 - ・清書の緊張感から思うように運筆が進まない児童には、予備の用紙を用意し新聞に貼り付けさせる。

(5) 展開

時	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援	時	備考・評価
導入	1 学習の準備をする。	○毛筆書写用具を準備するだろう。 ・小筆を使うのだな。墨は少し注ぐだけだね。	・用具を準備させ、前時までの学習ポイントを想起させ、字配りについて知らせよう。	7分	書写用具 学習ポイントを書いたカード 拡大文字「いろは歌」 ・学習ポイントや小筆で俳句を書くことが分かったか。
	2 前時の学習を想起し本時の学習内容を知る。	○行の中心・字形についてポイントを思い起こすだろう。 ・行の中心を揃えるとまっすぐ文字が整った。 ・字形も平仮名は始筆、終筆をやわらかくとめた。丸みがあった。 ○字配りについて知るだろう。 ・間隔や漢字と平仮名の大きさについても注意しよう。 ・小筆で俳句を書くんだった。 ・読みやすい字にしよう。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><学習のポイント></p> <p>【行の中心】 拡大した作品 ・行の中心が揃っている俳句</p> <p>【文字の形】 拡大文字「いろは歌」 ・文字全体に丸みがある ・折れが曲がりになる ・はねがはらいになる</p> <p>【字配り】 ・字間や漢字とかなの大きさに配慮した俳句</p> </div>		
			行の中心、字形、字配りに注意して小筆で俳句を書こう。		学習内容を書いたカード
展開	3 「いろは歌」を書き、練習用下敷きと用紙を使って自分の俳句を小筆で書く。	○平仮名の字形に注意して書くだろう。 ・この前は字がうまく書けなかったからよく練習しておこう。 ・手がふるえちゃうよ。 ○試し書きを確認し自分	・「いろは歌」を書かせる。 ・用紙に小筆で自作の俳句を書かせる。 ・ポイントや課題について赤のペンか赤鉛筆を使用させ、いろは歌、や俳句を自己修正させる。	20分	・自分の学習課題が持てたか。

	<p>4 行の中心、字配り、字形などに気をつけて新聞の俳句コーナーに自分の俳句を小筆で書く。</p>	<p>の課題や学習ポイントを意識して、小筆で俳句を書くだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に書きたいな。 ・字の形はいいかな。 ・この字はもう少し横に広くしたほうがバランスがいいな。 ・漢字は平仮名よりもちよっと大きめに書くんだったな。 ・字と字の間をもうちよっとあけてみようかな。 ・行の中心が揃ったかな。 ・書いた文字を見直し赤ペンで良いところに○をつけよう。 ・赤ペンで課題を書き入れよう。 <p>○自作の俳句を書くだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆をまっすぐにして書くのはむずかしな。 ・緊張するな。 ・失敗したらどうしよう。 ・あわてないでゆっくり書くぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろは歌は自分の俳句に使う平仮名を中心に自己修正させる。 ・修正したことが生きるよう学習ポイントの見返しをさせる。 ・机間指導をおこない自分の学習課題や学習ポイントに気をつけて練習しているか確認する。 <p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改めて墨をすらせ、落ちつかせてから消書用の紙を出させる。 ・練習用下敷きを使って書くことも認める。 ・書き直したいときは、別の紙に書いて貼っても良いことを知らせる。 ・練習中に書いたもので気に入ったものがあれば貼る。 	<p>修正に使う赤ペン(赤鉛筆)</p> <p>・<u>行の中心・文字の形・字配りを意識して練習できたか。</u></p> <p>・<u>練習したことを生かして書けたか。</u></p>
<p>終末</p>	<p>5 まとめをする。</p> <p>6 用具の片付けをする。</p>	<p>○友だちの書いた文字を見て感想を言ったり本時の感想を出し合うだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に書けているね。 ・字と字の間のあけ方がうまい。 ・漢字と平仮名のバランスがいいね。 ・文字がまっすぐでよみやすいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二～三人組で、本時書いた字を見合い良い所を発見させる。 ・本時の感想を出させる。 ・小筆の練習を新聞記事を書くときも生かそうという気持ちに結びつけたい。 <p>8分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墨、筆、用紙、床など係りの児童と見直す。 	<p>・<u>友だちの文字の良さに気づけたか。</u></p> <p>・<u>小筆の始末がわかり用具を大切に片付けられたか。</u></p>

(6)反省

7. 座席表

黒板

田中 大輔	井出 晴子					山田 光里	須江 将基
佐藤 航平	中沢 早紀					菅 真梨子	水内 勇
白川 志穂	大屋 遼平					小池 美咲	田中 秋江
堀内 万葉	加納 瑞希					小山 広和	川浦なつき
内田 光	佐伯 杏奈	荒井 径	玉井俊太郎			坂口香菜子	清水 彩人
佐藤 咲	高田 侑希	原田 千広	内山 侑紀	鳥井 美幸	小林 翔	松坂佳寿美	
不破みのり	北島 有里	高橋 友樹	若井 彩香	河合 太一	折金 青香		

本時の実証の観点

1. 個人新聞に俳句を書かせたことは、読み手に分かりやすい文字を書くことにつながったか。
2. 小筆を使ったことは、課題を持って文字を書くのに有効であったか。
3. いろは歌を練習させたことは、平仮名の字形を整えて俳句を書くことにつながったか。
4. 練習用下敷きは行の中心を整え、字配りよく書くために有効であったか。

いろはにほへと
ちりぬるをわか
よたれそつねな
らむうるのとおく
やまけふこえて
あさきゆめみし
急いそひひももせせすす（ん）

色はにほへと

散りぬるを

わがよたれぞ

常ならむ

うるの奥山今日こえて

浅きゆめみし

急いそひひももせせすすん

5年3組柄澤学級授業「自作の俳句を毛筆（小筆）で書こう」（A.K児の姿=S）

（K.N児の姿=S2）

10:55

- T. 俳句の消書の日です。
 いろは歌、覚えていますか。
 S. 教師の問いかけにうなづきながら
 耳を傾ける。左前方をちらっと見る。
 T. 注意することは・・・字の形に
 S. 「字配り」とつぶやく。
 T. 字配り、覚えてますか。
 S. うん、とうなづく。
 T. 字の形、字配り、行の中心勉強してきた。
 S. 無意識に紙（いろは歌、写し紙）を手で
 持っている。手で顔をかく。

10:57

- T. 板書
 小筆を使って俳句を消書します。
 S. 集中して見ている。
 T. よろしいでしょうかね。
 S. はい、とつぶやく。
 T. 緊張しているの、いっばいいるね。
 S. うなづく。左前方を見る。顔をかく。
 T. 今日はもう消書ですんで、俳句の中に
 出てくる字を練習しましょう。
 S. スポイトに触れる。持っている。
 T. 字の形、お手本で確かめながら
 いいですか。いいですか。
 S. はい、とつぶやく。

10:58

- T. それでは、用意して始めましょう。
 S. スポイトの水を適量、素早く入れる。
 すぐ墨をすり始める。約1分間
 お手本の紙の上に写し紙を重ね
 指で押さえて写してみる。
 引き出しの中から、小筆を取り出す。
 親指と人差し指で挟み、筆立てる。
い、ろ、は、に、ほ、へ、と、と
なぞり書きをしていく。
 教師の他の子への助言や、他の子の
 「俳句に出てくる文字だよ」の声が
 耳に入ったのか、途中で気づき
 写し紙をずらしながら「た」を探し書く。
 S2. しずかに墨をする。下にはいろは歌を敷い
 て写し出す。（薄い字）

11:03

- T. そろそろなぞり書きじゃなくて、自分で。
書いて、チェックしていきましょう。
 S. 続けて字を探し、た、ち、が、となぞる
ちょっと考えているふう（とりは漢字
だったためか）だったが、と、り、た、
ち、が、となぞり書きをしていく。写し
紙を取り除かずに見つけて書いていく。
 S2. ゆっくり書いている。

11:06

- T. いったん筆を置いて、字形のチェ
ック。重ね合わせてみて。
 S. 重ねてみる。
（もともとなぞり書きしている
ズレが生じている）
 赤ペンを持つ。が、た、に朱。

11:08

- T. 赤ペンを置いて下さい。
 S. 置く。
 T. では下敷きを出して、紙を重ねて
 自分の俳句を書いてみましょう。

11:09

- S. 1枚目を素早く用意。
 左手で紙を押さえ、「鳥たちが
 夕日に向かって 一直線」と書く。
 筆は立っているが、やや右に傾く。
 S2. 書き始める。ていねいに確実に。

11:11

- S. すぐ2枚目に入る。
 筆を立たせて、2枚目書き終える。

11:13

- S. 赤ペンを持って、1枚目の紙を見
 返す。どうしようか、周りの様子
 を伺いながら考えているふう。
 空筆後、朱を入れる。（？）
 2枚目を取り出し、考えているふ
 う。こあくび。「た」に赤ペン。

11:16

- S. 2枚の紙を整えて左上に揃え置く。
 3枚目を用意し、小筆を持つ。
 引き出しを引いて、また入れる。
 （新聞があるかの確かめか）
 小筆を整え、書き始める。
鳥たちが 夕日に・・・筆が止ま
り、正面を見つめている。T姿？
 また書き始める。

11:18

- S. 赤ペンを持って、が、か、て、に
 朱を入れる。
 書いた紙をきちんと揃え置く。

11:20

- S. 4枚目の紙をあてがって、すらす
 らと書いて行く。
 S2. 3枚目に赤ペンで直しを入れる。
 【の】と【が】

11:21

- T. そろそろ消書にしたいと思います
 S. 書き続けていたが、一直まで書き
 筆をおく。新聞に触れる。
 S2. とりの人と相談したり下に下敷
 きをあて、じっと見る。

- T. 一発勝負です。うまくいかなかったら練習の紙でもいいです。
- T. 練習を続ける人は、30分には仕上げるように。
- S. あくびをする。
- 11:22
- S. 最後の“線”を書き入れる。
赤ペンを持って、て、つ、に朱を入れる。
紙を揃え置く。
- 11:23
- S. 5枚目を書き始める。
これまでと同じテンポで書き終える。
- 11:25
- S. 赤ペンを持ち朱を入れようとするが、結局何も入れない。
- S. ・間・引き出しを引き出すが、新聞は出さない。(Tが目前にいる) スポイトの水をすずりに注ぎ入れる。
- T. そろそろ消書しないと間に合わないですよ。
- S. 墨をすり始める。前と同じ、1分程する。
- 11:28
- S. 引き出しの中から、新聞を取り出す。マスの用紙を新聞の下に敷きあてがう。
小筆を持つ。椅子を引く。もう一度小筆を整える。
- 11:29 S2.書き始める。
- S. 筆を立て、一定のテンポで書いていく。
小筆への墨付け、数回。
- 11:31
- S. 書き終える。
教師が他の子に「早く」といった様子を伺いながら時計をちらっと見る。
今まで書いた紙等を揃えている。
新聞に書いた俳句の下にマスの用紙を入れ、見返す。
・間・小筆を持つ。書いた俳句を見つめる。小筆を持ったまま、様子を伺う。
- S2.書き終える。
- 11:34
- S. 小筆を置いて、左の女子の新聞をちらっと見る。
小筆を持って筆を整え、マスの紙を外して、“徑”と入れる。
- 11:35
- T. ちょっと筆止めて・行の中心、文字の形、字配りについて・見合いっこ。
- S. 手は机の下にして姿勢よく聞いている。
- 11:36
- S. 小筆を持つ。斜め後ろの女子の様子を伺う。徑という字にちょっと筆を入れる。
小筆を置いて、後をちらっと見る。
前にいる教師と女子の様子を見る。
- S2. 小山弘和、潜水彩人と回して三人で見

- 合う。下書きと比べている。
自信があるようで満足な表情。
- S. 斜め後ろの女子の様子を伺う。待っているふう。
左の女子の方をのぞく。紙を持つ。
- 11:38
- 後ろの女子から声がかかる。
新聞を交換して見合う。
軽いあくびをする。
- 11:40
- 女子から徑君へ「全体的には、字配りはできています」と言う言葉が返る。
- S. 女子に一言伝える。(内容不明)
- 11:41
- T. 自分の作品、鉛筆等で書いたものと筆で書いたもの・・・書いた感じはどうか・・・比べた感想を。
- C. 筆で書いた方がきれいな感じ・・・
- C. 筆先の線のきれいさ・・・
- T. いいこと言ってくれたね。みんな出てるかな。
- S. 自分の書いたものを見る。
- C. 鉛筆では字と字の間詰まって・・・小筆では間を空けて書けた・・・
- T. 字と字の間隔がとれた・・・字の読み易さ、間隔取ること覚えておいて。
- S. あくびが出る。
- C. 硬毛ペンと比べ、小筆は力が入らなくてうまくいかない・・・
- T. 硬毛ペンの方がいい人。
- C. たくさん手を挙げる。
- S. 手を挙げず。S2. 挙手
- T. どうしたら筆でうまく書けるようになるか、これからも勉強していきます。終わりにします。

研究テーマにせまった子どもの姿：5年

① 個人新聞の文字に着目し読みやすい新聞を作ろうとしたA児（5学年）

個人新聞づくりを続ける中で、A児は自分なりの発想を大事にして文章を作るようになってきた。自分の考えを、友だちに伝えるためにどう書いたらいいのかと、工夫して書くようになった。クラスで行ったコンクールでは、その内容に対して、多くの友だちが高い評価をし、A児も大変喜んでいて、ところが、「字が読みづらいから丁寧に書くとともによい。」という友だちからの評価カードがたくさんあった。A児は、自分の新聞をより良くするために、字を丁寧に書く必要があるということに気付きはじめた。さらに、文字を見直す中で、読みにくくしている原因を考え、本時を迎えた。

【本時の様子】

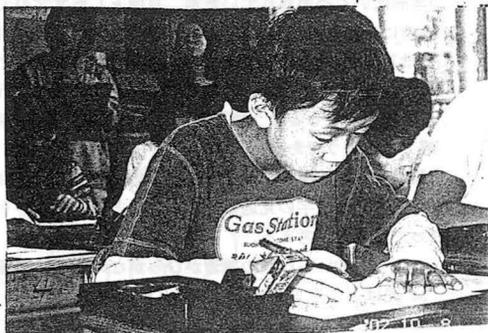
教師： 練習用下敷きを使って俳句を書く練習をしますが、自分が気をつけることは分かっていますか。

A児： 字と字の間をうまくあける。

（つぶやく）

この後、5枚練習し、その都度赤ペンで修正した。清書は下敷きを使ったが、練習の時より緊張していた。

授業の終わりに友だちと評価のしあいをしたとき、「全体的に字配りはよくできてるよ。」と言われ、うれしそうにしていた。



<考察>

- これまで担任や親が何度注意しても、気にせず文字を書いていたA児であったが評価カードによる友の評価が、個人新聞の文字に着目するきっかけを作った。
- 友や家族に個人で得た情報を伝え合うという個人新聞の特性が、「読みやすい新聞づくり」を進める原動力となったのではないか。
- 本時A児は、字間を意識して小筆で俳句を書こうとし、俳句に出てくるひらがなの字形を整えようと赤ペンでの自己修正を繰り返した。このことは新聞に読みやすい自作の俳句を書くための学びを展開させ、学年目標をふまえた書写学習を成立させた。また、友だちからの評価は、A児の学習の達成感を高めた。

② 小筆を使うことで、より真剣に取り組めたK児

K児は、元々習字は嫌いではなかったが、太筆で書くときは、1時間に4枚（8文字）くらい書くのがやっとで、後半は疲れて集中力が続かなくなる傾向があった。

小筆を使って、いろは歌の手本の上に紙を置いて書く練習をしてみると、手本とほとんど同じような字が書け、しかもたくさん一度に書くことができうれしそうだった。

【本時の様子】

本時では、一度いろは歌をなぞり書きした後、「月が出てにっこり笑う秋の夜」のひらがなを抜き書きして、手本と比べ、赤ペンで修正をした。本時は「ますいっぱい大きく書く」事を目標に、修正した字を見ながら俳句を書いたが、友だちの動向を気にすることもなく書き続けた。手本の字とだいぶ違っている字もあるが、その字を繰り返し書くなど、自分で何とかしようとしていた。時間がきて清書をしたが、下敷きは使わず、一気に書き上げた。

授業後の感想文より

いつもは太筆で書いてるけど、手本みたいにうまく書けないで困るんだけど、小筆だとわりとうまく書ける。早くいっぱい書けるからいっぱい練習できてよかった。今日は集中して清書ができて、新聞も完成できてうれしかったです。」

<考察>

○字形はいくつか崩れていたが、目標とした文字の大きさは納得できたようであった。清書時に下敷きを使わず書き上げられたのは、点画が書きやすい小筆を使って繰り返し自己修正をすることで、書こうとしている文字の字配りのみとおしがついたのではないか。

○感想にもあるように、筆捌きははるかに容易で、折れや払い、跳ねなどそれほど苦勞なくともできるという利点や、時間内に書ける字の数も格段に多いことがK児なりに実感できたようである。

○筆使いの抵抗が少ない小筆の使用をすることで、自己修正の際、練習量が確保でき書こうとしている文字の見通しを促すことにもつながり、集中し真剣にとりくむK児の姿となって現れたと考える。

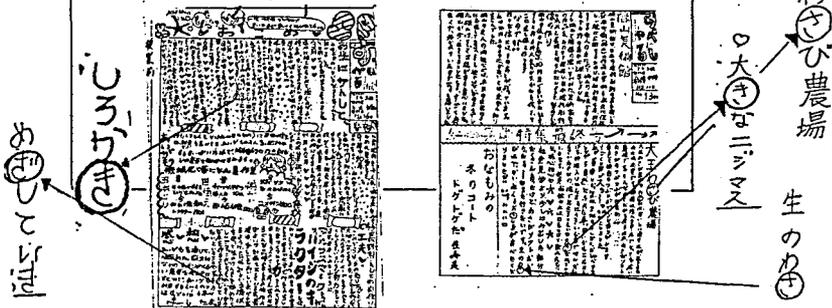
③いろは歌の練習がひらがなの字形に影響した M 児

M 児はととてもまじめで、字も几帳面で読みやすい。しかし、よく見てみると、丸文字とまでいかないが、かなり癖のある字になってしまっている。長い間に身に付いてしまったものなので、簡単には直らないものと思われた。また、友だちの評価も、きれいで見やすい。」なので、さらに困難を感じていた。ところが、小筆でいろは歌を書くという活動をしてみると、なぞりがきの練習をすることで、字形のぐせが直っていくことが分かった。特に、続き書きしている部分は直りやすく、M 児はえん筆で書くときも、「さ」と「き」の終わりの画を離して書くようになった。

大王わさび農場
生のわさび

授業前の個人新聞

授業後の個人新聞



第3学年 国語科書写学習指導案

長野市立 桜花小学校 3年3組
男子16(1)名 女子19名 計35(1)名
担任 吉田真弓

1. 単元名 「曲がり」と「おれ」の筆使いを知らう 題材名「ピル」

2. 本時の位置 (3時間時間配い中、第2時)

前時 ピルを毛筆で書き筆使いの課題を持った 体罰 次時 曲がりやおれに気をつけてピルを毛筆や硬筆で書く

3. 本時の主題

「曲がり」と「おれ」の自己課題を持った子どもたちが、自分に合った練習用紙を使い練習することによって、「曲がり」と「おれ」の筆使いを理解し書くことができる。

4. 指導上の留意点

- ・ また道具の扱いに慣れていない子どもたちなので、準備や片づけは休み時間に行う。
- ・ 練習用紙は、教師が作成する。

5. 本時の展開

時	学習活動	予想される児童の様子	指導・支援	期	備考・評価
導入	1. 前時を振り返り本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲がりとおれの筆使いのポイントを思い出すだろう。 ・ 曲がりは一気書きしないで、曲がる時はゆっくり書く。 ・ おれは、一度止めてから右上にはらう。種先は、いつも10時30分になるようにする。 ・ 曲がる時止まらないようにしたい。 ・ 筆を回さないように気をつけたい。 ・ おれが、はなむたいにならないように気をつけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のポイントを想起させ、曲がりとおれの筆使いについてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲がりは速さをゆるめ筆を止めずゆっくり書く。 ・ おれは筆を一度止め、進む方向を確かめて書く。 ・ 種先をまとめたがら、ゆっくりと右上にはらう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が特に気をつけて練習したいことを発表させる。 	8分	<p>拡大文字「ピル」ポイントカード</p> <p>・ 学習ポイントが<u>つか</u>ったか</p> <p>・ 自分の課題が<u>確認</u>できたか</p>
展開	2. 練習用紙を使って書く	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題に向かって曲がりやおれの練習をするだろう。 ・ おれはうまくいったから、今日は曲がりをガンバって上手に書くぞ。 ・ 種先の向きに気をつけて書くぞ。 ・ 線が全部太くなくちゃうな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決をする字を確認させる。 ・ 机周巡視をし、よいところは認めていく。 ・ 課題と思われる点は、まず子どもに尋ねてから朱を入れる。自分で課題に気づいた場合は、その気づきをほめる。 ※練習用紙が終わったら半紙に練習。 	30分	<p>練習用紙 三枚 半紙、赤鉛筆</p> <p>・ 練習用紙を使い、<u>おれや曲がりの課題解決に向けて筆使いに気をつけて練習</u>できたか。</p> <p>・ <u>よくなった点や、上手いかなない点に気づいたか。</u></p> <p>・ <u>練習したことを生かして書けたか。</u></p>
まとめ	3. 自己批評をする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題や学習ポイントを思い出して自己批評するだろう。 ・ おれはうまくいったけど、その後ののはらいが短すぎた。今度は気をつけたい。 ・ はらいの最後がどうもうまくいかない。 ・ 曲がるところがちょっと急すぎた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ポイントや課題によって自己批評し、赤鉛筆で作品に記入させてから、発表させる。 ・ 必要に応じて手を添え、力の加減をつかませる。 		
	4. まとめ書きをする	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の課題や学習ポイントを意識してまとめ書きをするだろう。 ・ はらいが長くなるように、筆をまとめたがら書くぞ。 ・ 曲がった後の線の長さにも気をつけて書くぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学習したことを思い出しながらまとめ書きをさせる。(2枚) ※一枚の紙に同じ字を2つ書かせる。 		
	5. 共同批評する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの書いた字を見て感想を言ったり、本時の感想を出したりするだろう。 ・ 曲がりであれ少しく細くなって上手だ。 ・ ちゃんと一度止めてから、はらって種先も10時30分になっているのがわかる。 ・ はなの書き方がかかって、うまく書けるようになって嬉しいな。 ・ 今度はもう一つの手も上手に書くぞ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 席が近くの人で作品を見合い、よい点を発表させる。 ・ 本時の感想を出させる。 	7分	<p>・ 友だちのよさに<u>気づ</u>けたか。</p>

6. 反省

3年3組座席表

黒 板

㊦ 谷所 みさき	㊦ 金子 ゆうすけ	㊦ 荻場 みずき	㊦ 屋ヶ田 くんべい	㊦ 月岡 なお	㊦ 右田 ひろき
㊦ 柿澤 さき	㊦ 檀原 ふみひと	㊦ 林 きょうこ	㊦ 池田 れん	㊦ 中村 みゆ	㊦ 百瀬 かずき
㊦ 米村 ちひろ	㊦ 今牧 たくや	㊦ 丸山 りな	㊦ 村橋 みか	㊦ 大門 ゆり	㊦ 田村 こういち
㊦ 村田 あや	㊦ 小須田 たくろう	㊦ 篠原 はるか	㊦ 樋口 けいすけ	㊦ 松本 しおり	㊦ 丸田 あゆみ
㊦ 田村 みお	㊦ 北島 ゆうや	㊦ 小林 まゆ	㊦ 永井 かずま	㊦ 中沢 りか	㊦ 武田 つよし
	㊦ 塚田 脩斗	㊦ 松下 あいな	㊦ 森 りょう	㊦ 大日方 あやか	㊦ 小山 まさき

* ㊦ …… ㊦の練習(曲が)をする。(赤ぼろし)

㊦ …… ㊦の練習(おれはら)をする。(白ぼろし)

授業の流れ・教師の発問

前にやったビルの筆使いで気をつけることを発表して下さい。

わざと細くしようとすると変になる。止まらないでここでぐっと力を入れる。止まらないんだけど・・・

そうだね。スピードをゆるめ止まらないからと行って走ってはダメ。ゆっくりにしてからぐっと。思い出しましたか？今度はルのおれはどんなことに気をつけたい？

何を？

そうそう。これはどこで分かるのかな？前に出てきて誰か指を指して下さい。

ここがどうなってるといいの？

10:30にしていると、斜めになるね。(貼る)最初もそうだよ。そのまま真っ直ぐ(一度止める)どうするんだっけ？

今度は止まる。一度きちんと止まらないといけない。次に気をつけるころは？

みんなの作品が貼ってあるけれど、短すぎる人がいたね。穂先をまとめながら右上にはらう。だんだんだんだん(小さい)貼っていく)やっぱり穂先の向きに気をつけながらゆっくり・・・

ビだって穂先の向きに気をつけて曲がるときにゆっくりにして、最後はびしっと。

穂先の向きに気をつけ曲がるとき筆の軸を回さない。方向を変えるときをつけて。

今日は曲がりとおれ、どちらも方向を変えます。真っ直ぐだったのが、おれ。でもその時にビは止まらない。でもおれは止まる。今日はみんなにそれぞれ一つの字をやってもらいます。自分で今日は今ことをがんばりたいなということを発表して下さい。

さっき言わなかったけど、短いとはねになつてしまうので、はらいを長くね。

紙一枚、下敷きは横にして。みんな大分練習してきたので、今日は線しかない骨書きをします。真ん中の骨がある。穂先の位置と間違えないで、始筆と終筆だけ書いておいた。そこから始めて骨になるようにして下さい。まずはかご書きから右の方へ3枚終わった人は白い紙に練習。姿勢をよくして始め。

(Y男に)とてもきれいにできたね。

児童の様子

C1 ビの曲がりやゆっくり書く。
C2 曲がるところは細くなる。

瑞季 ゆっくりにする。

運 10:30に入れる。

運 筆の穂先を

薫平 (指す)

薫平 斜めになる。

拓也 おれる 止める

剛志 止めてはらうときに、右上に穂先をまとめながらはらう。

C ビは？

C 10:30

～がながばりしたいこと～

里香 はらいの時穂先をまとめてはらうようにしたい。

和樹 止まらないようにしたい。

晃一 軸を回さないようにしたい。

莉奈 おれのはらいが短かったので、長くしたい。

みさき 筆の先が10:30になるよう忘れず書きたい。

～練習の様子～

裕貴(ビ) 曲がり止まらずややゆっくり。

薫平・連(ル) ゆっくりはらう。

瑞季 やや筆を回す。

杏子(ル) 鉛筆持ち。はらいはゆっくり。

宥輔(ル) はらい、おれよくなる。ゆっくり。穂先の向きも気をつけている。

薫平 だんだん上手になってきている。

(一時中断)

練習した自分の字のよいところやまだまだだと思ふところを作品を見せながら教えて下さい。

愛奈さんのピはどうですか？

かすれるのは味があっていいよ。曲がった後は強くな。

一真さんの作品で気がついたことのある人。

圭祐くんは一真さんのいいところも教えてくれた。でも自分ではもう少し？厳しいね。

瑞季さんは曲がりのところが上手いとみんなが言ってくれた。ゆっくり書きましたか？

檀原君の曲がりは？

上手いのばかりで直すのいね。

菜緒さんのようにおれを直したい人は？

では愛奈さんのようにおれをぐっとしたい人。

今日勉強したことを生かして、まとめ書きをします。一つの紙に2つ書きます。

席が近くの人作品と前に書いた壁に貼ってある作品を見て、よくなったところを探してみてください。

では発表して下さい。

とても上手になったね。拍手してくれた人ありがとう。

力加減、曲がった後ぐっと力が入って手、短い時間でしたが、上手になりました。今度はビルと書きましょう。今日やったこと友だちのよかったことを忘れないで、ピの人はル、ルの人はピのことも頭においてやりましょう。

卓郎 (力の入れ方腕を持って指導)
莉奈・遙 (ル) はらいに気をつけとてもゆっくりはねている。

拓也 (ル) はねが細い。自分で指さしている

卓郎 はねが上手くでき満足げ

彩 (ル) ゆっくりはらう。上手い。

裕也 (ル) はねが長く書けている。姿勢にも気をつけている。やや筆を回す。

圭祐 (ル) はねが短く穂先だけピッとはらう。
千尋 (ル) たくさん空いているところに練習。

愛奈 (ピ) 横の線のところが上手くできなかった。

C 曲がっているところがかすれている。

一真 (ル) まとまってまだはらえない。

圭祐 おれのところが△になっていい。

瑞季 (ピ) 始筆の穂先が真っ直ぐになった。。

C 曲がりは上手い。

瑞季 うん

檀原 止めのところが下がった。

C 上手い。上手。

菜緒 (ピ) おれが短くなってしまった。

C 挙手10人くらい

C 挙手10人くらい

薫平 (ル) やや手首ではらう。まとめられないが長い。おれはしっかり。

蓮 真剣に名前を書いている。

宥輔 (ル) はらい長く書けている。

遙 (ル) はらい長く書けじっと見ている。

裕也 (ル) おれ、はねの長さともよい。

2つの画の間はやや広い。

まゆ (ピ) 一つ一つ気をつけて上手く書けた。

C ワイワイ言いながら作品を見合い、よいところを見つけている。

みさき 金子君のルのはらいのところがちゃんと長く書けていていいなと思う。

C (拍手がおこる)

C (拍手が大きくなる)

研究テーマにせまった子どもの姿：3年

互いに関わって伝達性の高い文字をめざす子どもたち

まだ毛筆の筆使いに慣れていないため、なかなかうまく書けない3年生の子どもたちに「ビル」の「曲がり」(ビ)か「おれ」(ル)のどちらか一つを自分で選択し、自己課題をもって本時にのぞませた。

～本時の様子から～

K児の課題は「ル」のおれであった。前時はおれの部分が短くはねのようになってしまっていたが、導入で熱心に筆使いのポイントを聞きながら、何度も練習用紙を使って練習する姿があった。K児の隣のT児は「ビ」の曲がりを選択して、同じように何度も練習していた。

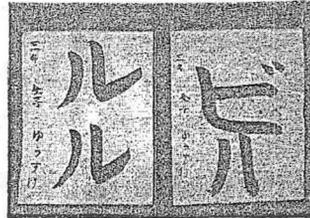


～ 練習が終わり共同批評をする場面で ～

教師 それでは、友だちの作品を見て、上手だなと思った人どうですか？
<挙手多数>たくさんいるね。ではTさんお願いします。

T児 K君なんだけど、前は「ル」のおれが短かったけど、今度のはきちんとおれてるし、伸びていてよいと思います。

子どもたちから「あ一本当だ。」「すごい。」と言う声があがり拍手が起こった。



T児は隣の席で何度も練習を重ねているK児の姿を見ていた。別々の課題に取り組んでいたが、あらかじめ「ビ」と「ル」両方の筆使いのポイントを説明しておいたこともあり、筆使いの観点を共通理解し、T児や他の児童もK児のよさに気づくことができたと思われる。また、そこで起こった拍手は同じ対象に向かう友のよさを学級全体が共有できたために生まれたものだと考える。

<考察>

- 子どもたちによる相互評価の場面を授業の中に位置づけることで、互いのよさを学級で共有し合うことができると考えられる。
- 書写学習で友の字のよさを発見し共有していくことは、学習課題を達成していく過程を確認していくことにつながり、基礎基本の定着を確かなものにしていこう。

(4) 指導者のご指導・講習会の記録

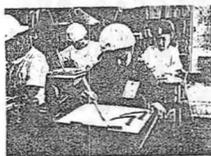
国語科 係内指導 指導者 信州大学教育学部言語教育教授 市澤静山先生

5年3組柄澤学級授業「自作の俳句を毛筆（小筆）で書こう」

- ・新聞を作る～記事にすることを考えて、調べて、配分も考えながら文章を作る。一枚の紙に、いろんなものを創り出していく創意工夫があり勉強になる。
- ・新聞に書いた俳句は、しっかり書いている。表情もいい。長い時間、神経集中してやることは字の勉強だけでなく、鍛練になる。精神統一しながら真剣に取り組むことは大事なこと。その点で、いい授業。
- ・子どもの動きに見合った教師の発言がいい。しゃべり過ぎるのはよくない。
- ・写し書きから発展してきて、今回マスの筋だけ比べてみて、しっかり正しくできている。
- ・子どもの筆のおろし程度で、もう少しおろすようにしたら墨のつきもよくなる。
- ・小筆をきちっと持っていた子どもが殆ど。小筆をきちっと持たせられるのは大したもの。鉛筆持ちから鉛筆を立てると、震えてきてしまう。心も動揺してきてしまう。小筆の場合、鉛筆書きとは違って、手の甲をつけて手首を立て上に持ってくると動かなくなり、おなかに力が入る。全身の緊張を生む。
- ・小筆は、はやく書くにも書けない条件になっているから、子どもたちは丁寧に一本一本線を書いている。低学年の時は丁寧に書いているが、高学年になるとはやさを求めるあまり、字への注意がおろそかになり字が下手になる。中学校で行書の勉強のときはやくはいいが、小学校では“丁寧に”を大切に、それに徹する。はや書きは、丁寧に基になり普段の中で応用されればいい。
- ・“小筆で俳句を書く”と、教師も丁寧に書く後ろ姿から、子どももしっかり書かなくてはどう思いいになる。文字のチェックに赤ペンを使っていたが、子どもも曲がってしまうところはちゃんととらえてまた書いていく。
- ・墨をすらせたことはいいい。わずかの墨で済む小筆のよさであり、本気にならせるための墨すり、心を落ち着かせて入ることの大事さ。太筆の場合は、書く時間を確保するため、墨液を使ってすぐ書ける態勢をつくらなくてはならない。
- ・子どもたちは小筆でどの位の字が書けたか、書き慣れれば難しくなくなってくる。筆を押しえつけては、筆先が動いてしまう。筆先が紙にくいあたるとなると筆の毛をしっかり立てておいて書く。太筆では、画から画に移るとき筆の打ち直し（起こし）が必要。つぶれてしまっている筆を起こして書かなくてはならない。太筆で細く書くと考えてみる。太筆で先を使って小さく書く経験も試みるといい。小筆は、それがすぐできる。直立の状態で筆先で素直に書ける。
- ・大きな字→小筆の字→硬筆の字～応用発展として毛筆から硬筆へ、1時間の中に取り入れることもいいのではないか。小筆で練習しておけば、ちょっと力を入れればということが分かってくる。小筆と硬筆は、共通点が多いので効果が上がる。ワラ半紙などを使ってやってみるのが適当。
- ・太筆でも毛の3分の1を限度に使う。元まで押しえつけるのは避けてほしい。硬筆の勉強でも、例えば力の入れ具合など、早い時期に毛筆の手本を見させることもよい。1年生の勉強でも毛筆の字を見せてもいい。模範的なものを見せると、気づきがあれば覚えてしまう。
- ・言葉を感じるのと同じように、漢字を見せておけば覚えてしまう。例えば、月ってこういう字だと視覚で覚えてしまうから、書けるのは後でもいい。習ってない字でも、日常の生活の中で漢字を書いてよみがなをふっておけばいい。読書も楽しくなる。
- ・書写教育は、後から系統立って指導するのもよい。かなと漢字、かなは抽象的。漢字の方をはやく覚えらる子どももいる。最初に漢字も見せておけば、漢字力、国語力も。1つの言葉も、ひらがな、後で漢字では？
- ・小筆は、短い時間で多くの字が書けるという効率が高い。慣れてくれば苦勞はない。そのためにも回数を重ねることが大事。生活に生かすことも多い。研究を続けてほしい。これからは、書写力を高めなければならない。生活する中、必要に迫られてということも……。

3年3組吉田学級授業「『曲がり』と『おれ』の筆使いを知らう」 主題名「ビル」

- かが書きほお書き、いわゆる写し書きのよさ～はやく要点が分かるということで大事。補助教材として、いろいろ工夫しどんどん利用していく。下敷きは、効率のよい一つの工夫。
- どこまで筆を押さえたらよいか、子どもたちは分かっているようだ。書くうちに勢いがついてくる。
- 全体の流れはよかった。教師もてきばきと、子どもも従っていけるようなタイミングよい指示も出ていた。掲示物の利用で、子どもの発言と同時にタイミングよく適時入れ、分かりやすかった。筆の向きを表す（筆の形をかたどった物を使った）アイデアもよかった。実際そう書けなくても、理解できた子どもも相当いたのではない。
- 流れとして、前もって自分の学習のポイントがおさえられていた。おれと曲がりを帽子の色で明確にし、意識をはっきりさせてのぞんだ。
- かが書きによって、しっかり打ち込みができていた。起筆がまずきちんとできて、角度入っていてよい。力強さがある。
- 自ら朱を入れることもよい。自己批評の場となる。そして、子どもたちに発表させる。友だちのよさに気づき、認めほめる。子どもたちの納得した自然の拍手で、書いた自分が喜びを得たのでは。本校の研究テーマの一つにもなっていると思う。
- さらに筆の向きを正しくして、大胆な運筆で書かすとうまくいったと思う。例えば、ながいかずま、力の入れ方で起筆をどんと入れ、どんと押さえる。起筆をどんと圧力をかける子どもは、線がビシッとできる。さらに起筆の後、押し込む気持ちを入れるといい線ができる。自信を持って腕を動かすことを強調していくとよい。
- おれより曲がりの方が難しいか。「こうすると（筆を傾けて書く、筆を立てて書く）とどんな線になるだろう」と投げかけてみる。例えば左はらい、筆を寝かせ傾けて書くと線が切れてしまう。筆の腰を立てて書くといい線ができる。筆の角度が大事。筆の立たせ方によって線が違うことを子どもにやらせてみて感じさせることがスタートにあってもいい。
- 机間巡視は、多くの子どもを一人でみる難しさがある。T・Tでもう一人、補助的な立場で実際に筆を持って正していけば、効果が上がる。いい教材を与えて勉強する。ところが子どもによって角度が違っていても、全体の流れの中ではできなくなる。その場に行って正してやれば理想的。
- 書写教育では、硬筆に近づけるやり方。でも、運び方等違いが大きすぎる。毛筆は、深くてきれいな線ができる。毛筆の教育では、その一部分をとっているという考え方で。



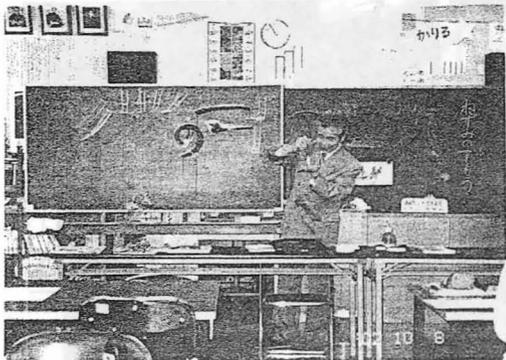
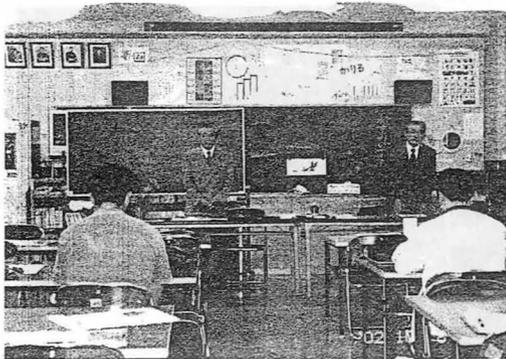
かあやらよちい
もあまむたりろ
めひまむけうれぬは
せきけふのそるに
すゆふこのつをほ
すみえおねわへ
してくなかと

指導者のご指導

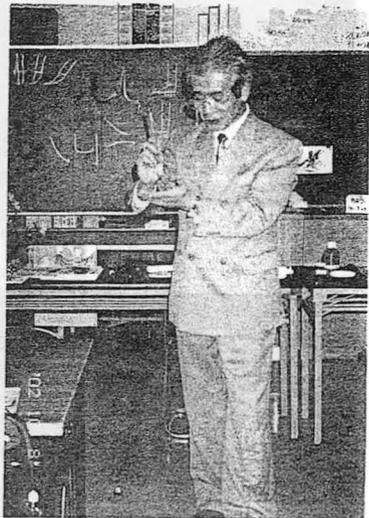
H14. 10/8

於： 裾花小 会議室





・ 講習会の記録



書写指導講習会

H14 10/8

於： 榎花小 図書館

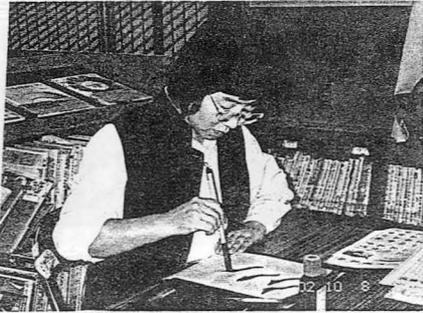
実技講習内容

- ・ 毛筆書写について
- ・ 基本点画の指導法

写真撮影：金井 房子

ビデオ資料 有

・練習会の記録



・講習会の記録



平成14 10月8日

書写指導講習会 座席表 (図書館) 15:30 ~ 17:00

立脚黒板

市澤先生

出入口

校長 T 教頭 T

河原 T
通澤 T 柿崎 T

羽田 T
北原 T 柄沢 T

百瀬 T
大日方 T 伊藤 T

篠原 T
清水 T 中村 6年 T

安部 T
中村 2年 T 古田 T

千村 T
平井 T 松本 T

丸田 T
吉田 T 大室 T

関間 T
金井 T 宮島 T

西澤 T
柳澤 T 柳澤 T

出入口

- * 書写用具は6年生のものをお借りします。
- * 手本は5年生の教科書を使用する予定です。(5年生よりおかりします。)
- * 紙・墨係で用意します。
- * 新聞紙2, 3枚ご用意下さい。

国語科書写学習指導案

平成14年11月26日（火）

裾花小学校1年1組 男子16名 女子15名 計31名

授業者 1年1組 担任 河原 節子

学習習慣形成支援 大日方 賀智子

1. 授業構想

研究テーマ 日常生活に生きる文字の力を育む書写学習のあり方

単元設定の理由

本学級の児童は、入学後「いつ鉛筆使うの」「今日はカルタできる」「字、読めたよ」と、教師に話しかけることが多かった。鉛筆を持って文字を書きたい、カルタをしたい、字を覚えたことがうれしいということが、表情や言葉からうかがえた。現在でも、文字を学んでいこうとする気持ちは高いように感じられる。

一学期は、一日一文字を基本として、平仮名を練習してきた。また、母の日カードや父の日カードへの名前書き、あさがおさんへのお手紙書き、七夕の短冊書きなど、生活科とかかわりながら、覚えた文字を日々の生活の中で生かせるよう学習してきた。一学期末には、教育実習生の先生に、絵日記形式でお手紙の返事が書けるようになった。

しかし、文字を書くのに時間が必要な児童や、書き上げるスピードにこだわる児童もおり、文字練習用紙・漢字ドリル、連絡帳を書く時の個人差は大きく、鉛筆の正しい持ち方、ていねいに書くことや書き順、点画のかきかたなど、意識して書こうという気持ちは芽生えてきたが、定着することがたいへんむずかしい現状である。

2学期になって、漢字の学習が始まった。漢字を覚えたい書きたいという気持ちが強く、週2回の朝の10分間ドリルの時間に漢字ドリルを進んで書く姿も見られる。また、漢字クイズを考えたり、自分の名前を漢字で書いたりして喜ぶ姿も見られる。このように、漢字に対して、興味・感心の強い児童が多いが、文字を正しく書くために、文字の点画や書き順に着目して書くまでには至っていない。そこで、「かん字を かいて みよう」の単元で文字の「とめ・はね・はらい」意識を向けて文字を書こうとする態度や技能を養うことをめざして本単元を設定した。

本時で願う子どもの姿

○文字を正しく書こうとする子ども。

漢字（画の終筆）の「とめ・はね・はらい」がわかり、漢字の「とめ・はね・はらい」に気をつけて書こうとする子。

○自分や友だちの文字のよさや学びのよさを見いだせる子ども

漢字の「とめ・はね・はらい」が正しく書けているかを見つめる気持ちが持てる子
友だちの書いた文字のよさや、課題に気づいている子

本時の願いに迫るための手だて

- ・漢字クイズをして、漢字の学習を進めていくという雰囲気作りをする。
- ・とめ・はね・はらいが焦点化されるよう用具を工夫する。
- ・とめ・はね・はらいの書き方が分かりやすいように、水書用の筆を使う。
- ・かくとてん、書き順で学んだことを取り入れて、定着を図っていく。
- ・自分の文字や友だちの書いた文字のよさをわかりやすくするために、実物投影機を使う。
- ・学習習慣形成支援の先生（T2）に板書の補助、児童の学習の様子をみていただき、TTで学習効果を高める。
- ・児童のプリントと同じ形の拡大プリントを準備して学習の進め方をわかりやすくする。

2. 単元名 「かん字を かいて みよう」

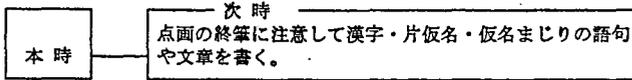
とめ・はね・はらい

3. 本時案

(1) 本時の主眼

漢字の終筆には「止め・はね・払い」の三つがあることを知り、点画の終筆に注意して漢字をかくことができる。

(2) 本時の位置 (2時間抜い中、第1時)



(3) 指導上の留意点

文字を書くのにかかる時間は児童によって違うので、書き終えたらまだ書いている友だちの書き方や文字を見る時間とする。

(4) 展開

時	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援	時	備考 評価
導入	1 学習の準備・漢字クイズをする。	○鉛筆・下敷きを準備し漢字クイズを楽しむだろう。 『田+力はなーんだ』 A: 男です。当たり 『く+ノ+一は?』 A: 女です。当たり 『大+, なーん だ?』 A: 犬です。正解	・用具を準備させ、漢字クイズで漢字の学習をすることを意識づける。(T1) 「漢字クイズをします。漢字クイズをする人どうぞ。(T1)」 3人前で準備(T2) クイズ揭示(T2)	3分	漢字クイズ用の紙 ◎漢字クイズに参加できたか。
展開	2 漢字の画の終筆を調べ、【とめ・はね・はらい】を知る。	・わからない ・止めてる ・はねてる ・はらい? ・平仮名でやった。 ・あ、それ漢字ドリルにもかいてあったよ。 ・知っている。 とめ・はね・はらいっていうんだな。 ○声を出して「とめ・はね・はらい」を確認するだろう。 ・磁石の輪をつけてみたいな。	「初めに、漢字の画の終わりがどうなっているか調べていきましょう。(T1)」 止め・はね・はらいの終筆の画を水書する。(T1) □カード・○磁石補助(T2) ・漢字にも平仮名・片仮名と同じようにとめ・はね・はらいがあることを確認し呼び方を知らせ声に出させて学習ポイントを押さえる。 「平仮名・片仮名で勉強したように漢字にも、とめはね・はらいがあるね。(T1)」 ・【とめ・はね・はらい】を揭示する。(T2) ・一棒で指して「声に出して答えましょう。(T1)」	6分	学習活動を書いたカード 水書用筆 水入れ □カード ○磁石 →棒 ◎学習ポイント: 画の終筆「とめ・はね・はらい」が分かったか。
	3 【上】【小】【大】の【とめ・はね・はらい】探しをする。	○【上】【小】【大】の【とめ・はね・はらい】探しをし、○磁石で印をするだろう。 ・始筆の止めに印を付ける。 ・終筆の止めに印を付ける。 ・はねは、すぐ分かった	「漢字の中で、とめ・はね・はらいがみつけれられるかな? (T1)」 【上】のとめはどこですか 【小】のはねはどこ? 【大】のはらいは? ・色別拡大文字に○磁石を付けさせる。(T1)	8分	学習ポイントを示す○磁石と色別拡大文字 ◎【上】【小】【大】の【と

展 開	<p>4 「とめ・はね・はらい」の書き方を知り練習する。</p>	<p>よ。 ・はらいは二つあるよ。</p> <p>○「とめ・はね・はらい」の書き方を考えるだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うーん？ ・とん、すー、とんだ ・とん、すー、なにかな？ ・とん、すー、びよん？ ・とん、さー ・とん、すー、う、さー <p>○「とめ・はね・はらい」の書き方をイメージし書くだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手にかきたいな。 ・うまくいかないな。 ・ゆっくりかくぞ。 ・はらいがむずかしいな。 	<p>○磁石を児童にわたす(T2) ・【上】【小】【大】の学習ポイントを、○磁石と色別拡大文字で掲示。(T2) ＜学習のポイント＞ 【上】：とめ 【小】：はね 【大】：はらい ○をつける。</p> <p>「とめに気を付けて書いてみるよ。どう書いていたか後で聞くから言えるように良く見てね(T1)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一番難しい右はらいに時間をかける。教師の師範を見て書き方を考えさせ、具体的なものの形をイメージさせる。(T1) ・とめ・はね・はらいを水書とチョークで師範する。 ・空書してから練習用紙にかかせる(T1)。 ・書き順、姿勢、鉛筆の持ち方を確認して書かせる(T1)。 ・机間指導をして学習ポイントや姿勢、鉛筆の持ち方に気をつけて練習しているか、確認・助言する。(T1/T2) 	<p>め・はらい・はね」が分かったか。</p> <p>23分</p> <p>学習活動を書いたカード</p> <p>練習用紙</p> <p>◎漢字の「とめ・はらい・はね」の書き方が分かり「とめ・はね・はらい」を意識して練習できたか。</p>
終 末	<p>5 まとめをする。</p> <p>6 用具の片付けをする。</p>	<p>○友だちの書いた文字を見て感想を言ったり本時の感想を出し合うだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に書けているね。 ・はねができたね。 ・とめがいい。 ・はらいがきれい。 ・がんばってかけた。 ・字がうまいね。 	<p>「今日、書いた文字を見ようね。(T1)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機で漢字のとめはね・はらいを見合い良いところや課題を発見させる。 ・本時の感想を出させる。 ・自分や友だちの良い点を認め合うようにする。(T1/T2) 	<p>5分</p> <p>実物投影機</p> <p>◎自分や友だちの文字の良さや課題を見つけようとしていたか。</p> <p>◎用具を大切に片付けられたか。</p>

(6)反省

座席表 (当日配布)

桐花小学校 1年1組 座席表

仮名のどめ・はね・はらい
 1 とめに気をつけて書いている ○
 2 はねに気をつけて書いている #
 3 はらいに気をつけて書いている //

黒板

漢字ドリル帳でのどめ・はね・はらいの実態
 4 とめに気をつけて書いている ○
 5 はねに気をつけて書いている #
 6 右はらいに気をつけて書いている //

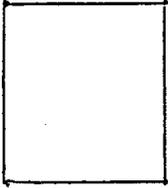
入口

松澤 怜央 1 2 ○ 3 ○○ 4 ○ 5 6	樫田 翔大 1 ○ 2 3 4 5 6	宇都宮航輔 1 ○ 2 3 4 5 6	宮澤 理紗 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	宮尾 優紀 1 2 3 4 5 ○ 6	松下 瑠樹 1 2 3 4 5 ○ 6	青木 良太 1 2 3 ○ 4 5 ○ 6	工藤 弓夏 1 2 3 ○ 4 ○ 5 ○ 6	阿部 雄真 1 2 3 4 5 ○ 6
澁川 美風 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 6	長谷川 楓 1 ○ 2 3 ○ 4 ○ 5 6	寺澤 健登 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	松島 依織 1 2 ○ 3 4 ○ 5 ○ 6	山本 実優 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	白根 大地 1 ○ 2 3 4 5 6		宮澤 葵 1 ○ 2 3 4 5 6	住澤 拓実 1 ○ 2 ○ 3 4 5 ○ 6
石田 航平 1 2 3 4 ○ 5 6	齊沼 航大 1 ○ 2 3 4 5 ○ 6	加藤 亜土 1 2 ○ 3 4 5 6	せん 杏けん 1 ○ 2 3 4 ○ 5 ○ 6	小林 伊万里 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	大久保 俊貴 1 2 ○ 3 4 ○ 5 ○ 6		小林 紗里佳 1 ○ 2 3 ○ 4 ○ 5 ○ 6	宮城 旭 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 6
竹内 理子 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	宮坂 桃佳 1 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○ 6 ○	伊藤 一生 1 ○ 2 3 4 ○ 5 6	海沼 美玲 1 ○ 2 ○ 3 4 ○ 5 ○ 6	荒井 美久 1 2 ○ 3 4 ○ 5 ○ 6	榊 哲史 1 ○ 2 3 ○ 4 ○ 5 6			

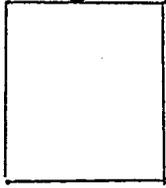
男子 16名 女子 15名
計 31名

入口

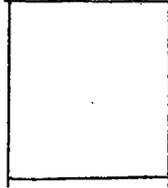
はら



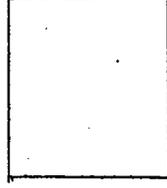
はら



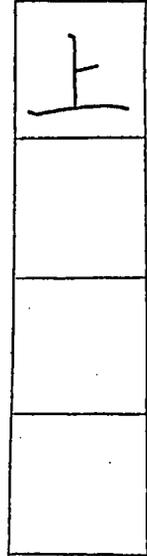
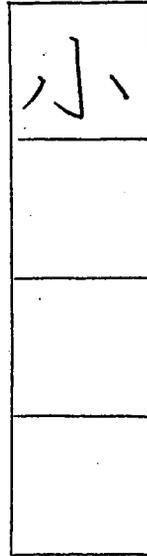
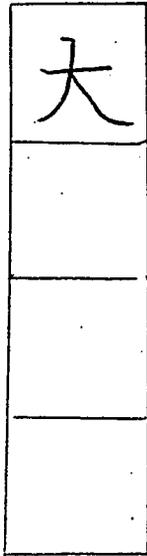
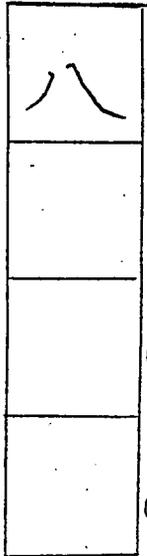
ちい



うえ

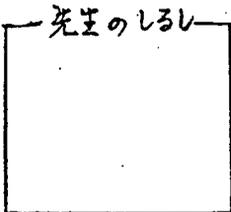
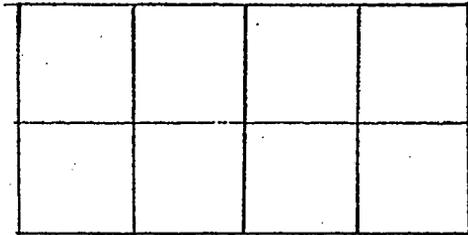


かんじのとめはね
はらい



なまえ

八 大 小 上



11:10

漢字の勉強をします。みんなの作ってくれたクイズをします。これなんだ、と言ってね。

今日は漢字の最後の画がどうなっているか調べます。読んでみようか？

みんなどんな画知ってた？

(とん、すー) _____

見えるようにかちこ先生に貼ってもらいます。

(横画) _____) このところどうなった？

止まっているから？

みんなで書いてみよう。

(とん、すー、さー)

そうですね、はねてるから「はね」といいます。

みんなで書いて・・・最後2つあります。

(とん、さー)

もう一つあります。とつてもとつても難しいよく見てね。

(とん、う、さー)

はらってるから、はらいと言います。さんはい

先生が指さし棒で指したところを言ってね。手を挙げた人全員でどうぞ。さんはい

さっきだいさんが言ったこと知ってた？あんな字ないね、とめと？

とめが三つあります。はい、パッチン

もう一つかくれんぼ。

先生分かんないと思ったけど、かくれんぼしてたんだね。1・2・3・・・ここに・・・

これ何てよむんだけっけ？上。そうそうあそこにあるね。

(小) はーい、パッチンお返事できておりこうさん。正確さを競っていますね。

いまりさんさやかさんの小ね。

次のかくれんぼは、はらいをみつけて。

11:13

クイズはおしまい。書き方を勉強していきます。

とめ、はね、はらい、かきかたをしろう

先生が書いてみるから、どんな風に書いてるかよく見て。

上

とん、すー、とん。

とん、すー、とん。

とん、すー、とん。どんな風に書いた？

しょうた これなーんだ
けんた くのいち
りょうた これなーんだ
こうすけ 男です
れお

c 何て書いてあるの？

c たて、よこ

c (静かに真剣に見ている)

みれい 止まってる

c とめ

としき はねです

c かんたん、かんたん

さりか はらってる

c はらい

c はね

c うわ一金で作ってある！

c (嬉しそう)

りょうた 下だよ！

けんた ○(拍手)

c 上！橋の上のおおかみでやった。

だいち

けんた 違う、ずれてる。

こうへい はらいだよね・・・

c 大きい

c みんなで読む

ゆりか 止めて書いてた。

みんなの手で書いてみて。

今度のはねだよ。どうやって書いたか見て。



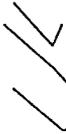
とん、すー、う
とん、さー、とん
ここのところどう書きましたか？

とても難しいです。指出してやってみよう。
ここで止めて、はらう方をよく見て、うっと止めとい
て、はねる方をよく見て・・・

今度は何を書くんでしよう。



とん、すー、とん
とん、さー、う、さー
はらいどうやって書いた？
何かの形に似てる？



ここのゴルフは止めて下さい。
すくっていいのかな？

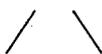
これでいいですか？

忘れないようにね。

いよいよ皆さん・・・

とめ、はね、はらいに気をつけて書こう

魔法の筆で書いたんだけど、ちょっと鉛筆に近いチョ
ークで書いてみます。



こうすると、ハになる。気
をつけてね

今日気をつけることはなんですか？
グー、チョキ、パー、気をつけてね。

11:25 グー、(ちょっと狭い) チョキは？パー、これだけ離
して下さい。さあ、鉛筆を持ちましょう。鉛筆をつま
むみたいね。

順番に書いていきます。一番上は先生が書きました。
おなかビ、足べったん。
(小さな声で) 書けた人は隣の人前の人よーく見てね。
書き順前に書いてあるよ。

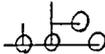
机間巡視 ゆうま「がんばったね。はね、うまいね。」
さりか「すてき。」
あさひ「がんばったね。」
まだ書いている人いるから、静かに待っててね。
鉛筆の持ち方がいいかな？

11:36 先生、感心したの映します。もういいかい、
(小)



ここを何ていったっけ？
よくできたよって思う人
大きい○をして下さい。

(上)



ゆみかちゃんのここのところ
の止め。こどもよくできたね。

(としき 下の方で自分でも書いている)

かずき はねてた。

ゆうま はらってかいてた
けんと わすれました。

しょうた はし？
たくみ きりん？
りさ すべり台、足を伸ばしてる感じ。
ゆうか 反対になってる。
ゆうま ゴルフのこうゆうの。
いっせい はらってないし、長すぎ。
ゆうま それはダメ。
ゆうか はらいすぎ。
けんと はらっているように見えない。

c とめ、はね、はらい。

ゆうま それ八じゃん
c 八だ

いっせい 力の上が出ないと刀になる。

あさひ (黒板の字を見て書く。しっかり
とめ、はらいしている。)
たくみ (だんだん雑になっていく。とめ、
はらいも気をつけていない。)
さりか (一文字一文字丁寧に書く。)

ゆうま (後ろを向いて集中しない。)

c (静かに待っている)
c ま〜だだよ

こうへい

c ○!

ゆうま ちょっと・・・だから○二個。
りさ 先生やって
けんと

11:42

これみずきさん ただ、こうやって書いてるだけじゃなくて、ここでうっと止めてがんばって書こうとしているので金メダル。

これは先生ずっと見てたけど、すごく上手だね。としきさん。ここで止めてすーっとはらってる。まだまだ映してあげたいんだけど、今日の感想を。

(こうへいへ) 思い出したらまた言って。忘れることいっぱいあっていいんだよ。

よかった・・・
はなまるくん出ました。
先生もらってあったっけ・・・映すよ。

今日うんとがんばってたみずきさん。よかった・・・
ちょうど時間です。

ゆみか ちょっと難しかったけど、楽しかった。

こうへい・・・

たくみ だいちくんが姿勢がよかった。
ゆうま けんとさんが声しゃべらないでやってた。

いっせい あど君 がうまかった。

c おおーうまい！！

かなた たくみ (拍手)

みずき 楽しかった。

てっけん みれいちゃんの字うまかった。

研究テーマにせまった子どもの姿：1年

互いに関わって伝達性の高い文字をめざす子ども

本時は漢字の終筆「とめ・はね・はらい」を知り、点画の終筆に注意して漢字を書くことをねらいとした。

A・B・C・D児は右払いの文字のイメージを持ち発表した。(□枠内参照)

このことは、文字の外形を認識した児童が1年生の言葉で、右はらいの特徴を言い当てて表現した場面である。4人の発言がクラスに広がり、その後、動作化、書き方の違いを発見して学習を進めていった。

本時の様子

T：今度は何を書くでしょう。
(右はらいを黒板に水書する。)

とん、すー、とん

とん、さー、う、さー

はらいどうやって書いた？

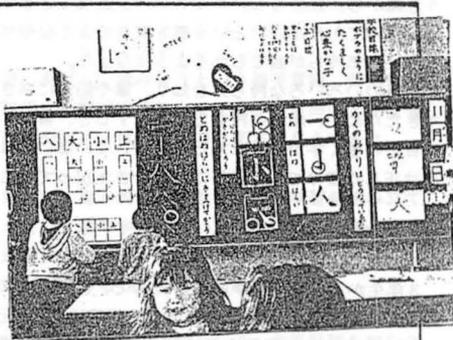
何かの形に似てる？

A児：橋

B児：きりんの足

C児：すべり台 足を伸ばしてる、
て感じ

D児：ゴルフのこういうの クラブ



<考察>

○「とめ・はね・はらい」の学習の中で、右払いは最も難関である。児童が右はらいの□部分を意識することができたのは、右はらいの特徴である□部分をイメージ化する→自分のイメージした形をみんなに広げる→イメージした形を聞き合うという過程を通じたからである。

○右はらいのイメージ化の後、動作化や正しい書き方と誤った書き方の違いを見つける空書、学習用紙での練習という学習活動を組み込むことで、右払いの書き方を獲得した。

○書くときに気を付けることが、姿勢、(児童の言葉で言えば『グー、チョキ、パー』『お背中ピ、足ベッタン』)鉛筆の持ち方であったが、とめ・はね・はらいも文字を書く時、大切なことが分かり伝達性の高い文字を書くための要素が意識付けられていくことがみえてきた。

○文字の終筆のとめ・はね・はらいという基本を大事に学習することで、学校生活の中で書いている生活ノート、漢字練習帳、名前を書くときの文字に学習の成果が表れてきていることから1学年では、文字の基本をおさえた学習をしていくことが日々の生活の中で使う文字力を培っていくことがはっきりしてきた。

(2) 実証授業から示唆されたこと ～授業後の子どもの変容～

5年 個人新聞づくりの活動を通して、子どもたちは自分が経験したことや調べたことを友達に伝える楽しさが分かってきて、きれいで、見やすい新聞にしたいという願いを持つ子どもも出てきた。そこで、小筆を使って、友達が読みやすい字配り（字形・字の大きさ・字の間隔など）を意識しながら書く力を付けさせたいと考えて実証授業を行った。

鉛筆で書くときの癖（持ち方・字形）は、担任が気づくたびに注意してもなかなか直そうとしない子どもたちだったが、鉛筆とは全く違う小筆の持ち方を練習したり、筆で書いた「いろは歌」に接することなどを通して、読めさえすればいい誰が書いても同じ字という意識から、自分らしいニュアンスを表現できる字という意識に変わってきたように思える。書いてあればいいという書き殴りのようなやり方が減って、その子なりに丁寧に書くという気持ちを感じられるようになった。

小筆のいろいろな持ち方を知り、筆や鉛筆にふさわしい持ち方があるという認識ができてきたためか、鉛筆の持ち方を注意すると、素直に持ち替えられる子が増えてきた。

自分の書く字が癖字なんだと気づいていない子は依然として多く、小筆を使っているときは正しく書いても、鉛筆になるとまた戻ってしまう子が多い。

3年

3年生から毛筆学習が始まったので、基礎基本の筆使い・道具の使い方などを中心に学習を進めてきた。毎時間のめあてを明確にし、自己批評や相互批評を取り入れることによって、自分なりの課題を見つけ、それに向かい真摯に学習に取り組む姿勢が出てきた。また、友の作品のよさを見つける目も育ってきた。

小筆を使い名前の練習をしたり、手紙を書いたりする学習にも意欲を持って取り組み、お正月には、担任への年賀状の宛名や本文を小筆で書く子が何人もみられ、日常の中でも筆を使おうとする姿勢がみられるようになった。

1年 4月から、子ども達が身近に感じかわりのある生活の中で題材を見つけ書写学習の観点を織り込みながら文字を書いていた。しかし、児童が、文字の点画や字形の基本を学び定着していくためには焦点化した学習が必要となった。そこで、漢字の終筆の「とめ・はね・はらい」に児童の意識がむいて書けるようになることをめざした。

この授業を通して右はらいにとくに関心を持つ子がふえた。明日の学習予定を連絡黒板に教師が記入していると、『「木ようび」のはらうところはきりんさんの足みたいにかくんだよ』と声をあげる姿も見られた。また、漢字練習ノートにとめ、はね、はらい、に気をつけて漢字を書く児童がふえた。漢字の終筆の「とめ・はね・はらい」には意識の高まりや基礎・基本の定着が見られる児童ではあるが、鉛筆の持ち方や姿勢に課題を抱えたまま文字を書く子もいる。

研究の成果と課題

○本校児童の書写学習の姿と指導の反省から書写学習の中でめざす児童の姿が導き出され、(①生活の中で読みやすい文字を書こうとする子ども②友だちや自分の良さが見つけられ、課題を持って学習をする子ども③用具や作品を大切に子ども)

研究の3視点〔①児童の文字に対する思いや願いを大切に。②基礎基本の定着を図る。③生活 実感のある学びを構築していく。〕を持ち仮説→実証授業という手順で研究を進めた。

5年生の実践からは、児童の生活の中から題材を見つけ、相手意識や目的意識を持って進める学習や用具についての試み、3年・1年生からは、伝達性のたかい文字をかく学習や指導法の実践ができ、日常生活での書写力向上につながる研究が重ねられた。

○学級で作っている個人新聞の相互評価、友だちと読み合うという相手意識、俳句を入れて新聞完成という目的意識を学習課程に位置づけることで、殴り書き風の文字を書く児童の文字ががわってきた。友の評価や相手・目的意識の大切さが見えてきた。

○個人新聞の中で使われている文字に対して、書写的視点を取り入れて学習を組み立てることで、文字の大きさにメリハリがない文章や字間がない文章、中心線が揃っていないため雑然として読みにくい文章が淘汰されてきた。生活の中で使われている多くの文字に対応していく書写学習の過程がだんだん明らかになってきた。

○高学年では単元の中に、生活や学習時に書いた文字を題材として、書写学習を組む方が、生活の中の多くの文字に対応する学びが可能となる。しかし、低学年や毛筆書写入門期の中学年では基礎基本を重視した学習展開の方が児童にわかりやすく、学んだことの定着も良い。このことから、生活の中の文字から立ち上げる書写学習と文字の基礎基本を学び発展的な学習として季節や生活、行事に関わらせて立ち上げる書写学習という二つの流れが見えてきた。

○生活の中で使われている多くの文字に対応していく書写学習の過程では、効率よい学びが必要である。小筆による学習は、筆使いも容易で文字に対する意識も集中しやすいので、他学年の小筆による学習の実践的研究、年間計画への位置づけが課題として考えられる。

(かわはら せつこ 長野市立裾花小学校)